

令和 5 年 5 月 24 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03105

研究課題名（和文）予防活動の持続・発展のための地域看護実践のOJT実用化研究

研究課題名（英文）OJT implementation study for sustaining and developing preventive activities in community health nursing practice

研究代表者

宮崎 美砂子 (MIYAZAKI, Misako)

千葉大学・大学院看護学研究院・教授

研究者番号：80239392

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は自治体の保健師が実務を通して予防活動の持続・発展に対する自らの実践能力を高めていくために必要なOJT（On the Job Training）の体系化と実用化を目的とした。先行研究において開発した“予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイド”をOJTで活用できるようワークブックを作成し、現場適用を通じてVer.1～3へと精練させた。また現場適用過程で収集した事例の分析から、予防活動の持続・発展に向けたOJTの5条件を導出した。以上より予防活動の持続・発展に向けた地域看護実践のOJTの体系を、目指すところ、OJTによる人材育成の考え方、OJTを支える条件、OJTの内容により提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、予防活動の持続・発展の中核を担うに自治体の保健師が自らの活動の推進力を高めていくためには、どのような「知見」を加えるべきかを、予防活動の持続・発展に向けたOJTの体系的な整理の点から解明した点で、学術的意義がある。また、この知見を産出する研究過程で作成したワークブックは、予防活動の推進と人材育成の両者を同時に推進するものとして、保健福祉等の多様な職場で保健師が活用できるものであり、保健師の実践の質の向上に貢献できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop and implement on-the-job training (OJT) necessary for municipal public health nurses to enhance their own practical ability to sustain and develop preventive activities through practice. The "Community Nursing Practice Guide for Sustaining and Developing Preventive Activities" developed in our previous study was made into a workbook that can be used in OJT, and refined into Ver.1-3 through on-site application. Based on the analysis of cases collected through on-site application, five key factors for OJT for the sustainability and development of preventive activities were derived. Based on the above, a body of OJT in community health nursing practice for sustaining and developing preventive activities was described from the viewpoints of the goal, the concept of human resource development through OJT, the factors that support OJT, and the content of OJT.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：地域看護 予防活動 OJT 実践ガイド 持続

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

筆者らはこれまでの先行研究(飯野他 2017、Iino et al 2016、飯野他 2014)を通して、地域看護実践における予防活動の持続・発展のために求められる地域看護実践技術を抽出・精選し、それらを基に実践ガイドを作成し、保健師の実践適用によりガイドの検証を行ってきた。今後、この実践ガイドを、多くの保健師に活用してもらい予防活動の持続・発展に役立てるには、あらゆるキャリア段階にある、様々な担当業務に従事する保健師のそれぞれの活動に役立つように、実用性を高める必要がある。人材育成の方法として、OJT、Off-JT、配置転換、自己研鑽の手段があるが、これら手段の中で、実務者が最も実践能力を高める機会とし得るのは OJT である(松尾 2011)。しかしながら、全ての実務者が実務経験を通して実践能力を高めているわけではない(同 松尾)。保健師が実践のコアとなる予防活動に対して能力を高めていくためには、キャリアの中で、どのような OJT の機会、環境が必要であるのかの検討は十分ではない。

2. 研究の目的

本研究は、自治体の保健師が実務を通して予防活動の持続・発展に対する自らの実践能力を高めていくために必要な OJT (On the Job Training) の体系化とその実用化を目的とする。筆者らが先行研究において開発した“予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイド(以下ガイド)”を保健師の経験年数、担当業務の種別を超えて、実践現場において日常的に活用可能なものとなるよう汎用性を高める。自治体の保健師がガイドを活用して実効性の高い予防活動を推進できる能力開発を目指して、必要とする環境を含め、OJT を体系化し、その実用化を図る。成果目標として、第 1 にガイドの現場活用による OJT 事例の収集、第 2 にガイドを自律して効果的に活用するために必要な保健師の能力、環境、体制等の検討、第 3 にガイド活用により予防活動推進の能力を高めるための OJT ワークブックの作成と検証、第 4 に総合検証による OJT の体系化に取り組む。

3. 研究の方法

次の手順により進めた。(1) 保健師の OJT の現状と課題の検討及び先行研究で開発した“予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイド”の OJT 適用に向けた枠組みの作成、(2) ガイドの OJT 適用で用いるワークブックの作成、(3) ガイドの OJT 適用及びその効果・実用性の検証のための調査の実施及び適用事例の収集、(4) 予防活動の持続・発展に向けた OJT に必要な保健師の能力、環境、体制の検討、(5) 予防活動の持続・発展に向けた OJT の体系の明確化

4. 研究成果

(1) ガイドの OJT 適用で用いるワークブックの作成

保健師の OJT について国内外の文献 129 件から国内 8、海外 5 文献を選定し、OJT のタイプ、開発する能力、職場環境についてレビューを行った(宮崎他 2019)。その結果から保健師の実務を通じた専門能力の開発は個人の知識や技術の向上と共に、組織メンバーのより良い実践への志向性やメンバーの凝集性を高め、学び合う職場環境の醸成の重要性を確認した。それを踏まえ、ガイドの OJT 適用で用いるワークブック Ver.1 を研究者間の協議により作成した(2019 年 9 月)。ワークブック Ver.1 は 77 ページから成り、OJT として活用するために大事とすることとして 5 点(業務の向上(予防活動の持続・発展)と人材育成を職場の両輪として目指すこと、OJT に関わる人が共に育ち合う(成長すること)、人間的成長が人材育成の成果の中に含まれること、育ち合うための環境づくりが含まれること、日常的 OJT と計画的 OJT を含めること)を提示した。またワークブックは先行研究で開発した予防活動の持続・発展に有用な地域看護実践の技術項目(4 カテゴリー・38 項目)を業務及び OJT で活用できるように、基礎編と応用編で構成し、基礎編は予防活動の技術項目の解説と OJT における活用事例の提示、応用編は保健師の日常業務における思考・行動のプロセスに応じて活用できるように 6 つのワークシートを示した。

(2) ワークブックの OJT 適用調査による Ver.1 から Ver.3 への精練

ワークブックを複数の OJT 適用調査により精練を図った。ワークブック Ver.1 の精練:自治体の保健部門に配属の保健師及びその上司(保健師)のペア 7 組を対象に 7 事業(母子保健 3、自殺対策 2、検診 1、喫煙対策 1)に 3 か月間使用してもらい、活用場面、予防活動及び人材育成への影響について対面によるヒアリングを実施した(飯野他 2020)。その結果を踏まえ、現場でタイミングよくワークブックを活用できるように応用編に OJT としての活用方法例及び各ワークシートのねらいを加筆し、ワークブック Ver.2 を作成した(2021 年 1 月)。ワークブック Ver.2 の精練:保健部門以外(子育て支援 2、高齢者福祉 2、国保部門 1)に配属の保健師及びその上司(保健師)のペア 5 組を対象に 3 か月間使用してもらい、活用場面、予防活動及び人材育成への影響について対面によるヒアリングを実施した(飯野他 2021)。その結果を踏まえ、現場での活用性を高めるために、地域看護技術項目やワークブックの説明の用語を再点検し一部修正を図り、ワークブック Ver.3 を作成した(2021 年 10 月)。

(3) 予防活動の持続・発展に向けた保健師のOJTの構成要素の導出及びその妥当性の確認
 上記の(2)の調査から得られた現場適用12事例を検討資料とし、予防活動の持続・発展に必要なOJTの条件を、保健師の能力、環境、体制の観点から分析した。OJTの条件(要素)として、83コード・34サブカテゴリー・5カテゴリーを導出し整理した(表1)。これらの妥当性を確認するために、自治体の管理的・統括的立場にある保健師2名、中堅期保健師2名、新任期保健師2名を対象に、キャリア別のオンライン・グループインタビューを実施した。その結果、予防活動の持続・発展に向けたOJTの条件として、「業務遂行上の問題意識」「助言を通じての相互理解」「業務の体制」「職場風土」「活動や実践能力への影響」があり、それらを充実させる重要性が確認された(Miyazaki et al 2022、飯野他 2022)。

(4) 予防活動の持続・発展に向けた地域看護実践のOJTの体系的な整理
 本研究の研究成果を統合し、OJTの体系を整理した(表2)。

(5) 本研究の成果及び今後の課題

本研究は、予防活動の持続・発展の中核を担うに自治体の保健師が自らの活動の推進力を高めていくためには、どのような「知見」を加えるべきかを、予防活動の持続・発展に向けたOJTの体系的な整理の点から解明した点で、学術的意義がある。また、この知見を産出する研究過程で作成したワークブックは、予防活動の推進と人材育成の両者を同時に推進するものとして、保健福祉等の多様な職場で保健師が活用できるものであり、保健師の実践の質の向上に貢献できる。今後の課題として、本研究で解明したOJTを通じた予防活動の持続・発展のための地域看護実践技術の普及・定着に向けて、その実用化の促進を図る標準的な方法及び体制をさらに明らかにする研究が必要と考える。

表1 予防活動の持続・発展という観点から捉えた地域看護実践におけるOJTの条件(要素)

カテゴリー	サブカテゴリー
1. 業務遂行上の問題意識	1-1 地域課題への問題意識
	1-2 業務改善に対する問題意識
	1-3 保健師としての自分自身の課題認識
	1-4 後輩育成に対する思い・問題意識
2. 助言を通じての相互理解	2-1 事業の意味や意義を熟考する機会の提示
	2-2 意見や考えを尊重した発展に向けた助言
	2-3 問題意識のタイミングをとらえた助言
	2-4 手段だけでなく専門的な理念の伝達
	2-5 予防活動に対する思い(考え)の伝達
	2-6 政策と関連づけて視野を広げる助言
	2-7 事業の目的や意義の共有
	2-8 取組過程の共有と承認
	2-9 事業の改善点の共有
	2-10 業務遂行への考えや行動への意味づけ
	2-11 振り返りによる職務への展望と課題の自覚への促し
	2-12 後輩への期待の表明
	2-13 落ち着いて話のできる場や時間の確保
3. 業務の体制	3-1 業務遂行の共通基盤となる指針の存在
	3-2 取組を共有できる業務体制
	3-3 定期的な意見交換の場
	3-4 経験を共有し学び合う場
4. 職場風土	4-1 取組に対する承認
	4-2 共感して話し合える人間関係
	4-3 オンタイムで相談できる風土
5. 活動や実践能力への影響	5-1 根拠に基づいた決断力
	5-2 問題意識や計画性
	5-3 予防への価値づけ
	5-4 地区活動との連動
	5-5 行動力
	5-6 事業目的の明確化
	5-7 PDCAの促進
	5-8 助言指導の意味の理解
	5-9 自己評価
	5-10 自信の高まり

表2 予防活動の持続・発展に向けた地域看護実践のOJTの体系

<p>1. 予防活動の持続・発展に向けた地域看護実践のOJTの目指すところ 業務の向上（予防活動の持続・発展）と人材育成を、職場の両輪として目指す。</p> <p>2. OJTによる人材育成の考え方 「共に育つ（成長する）」すなわち事業担当者だけでなく、同僚も、それを助言・指導する上司も共に育ち合い、成長する。「人間的成長を含む」すなわち単に業務の手順や方法に習熟することを目的とするのではなく、OJTを通して、物事への「主体性」「計画性」「責任感」「組織における自分の役割の理解」「他者との協調性」「応用力」「創造力」「不確実な状況下でも考えながら行動できる」などの実務遂行の基盤となる人間的成長を促す。</p> <p>3. OJTを支える条件 予防活動の持続・発展と人材育成を職場の両輪とするためには、OJTにおいて、下記の5つの条件、すなわち「業務遂行上の問題意識」「助言を通じての相互理解」「業務の体制」「職場風土」「活動や実践能力への影響」を充実させる。</p> <p>4. OJTの内容 「日常的なOJT」すなわち日々の業務の中での報告・連絡・相談とそのフィードバック、「計画的なOJT」すなわち期間や目標を定めたプロジェクト型の業務への従事等の両者を包含させる。</p>

<引用文献>

- ・飯野理恵他(2017): 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイド Ver.1 の活用と課題 . 日本地域看護学会第 20 回学術集会 .
- ・Rie Iino et al(2016): A Delphi method-based examination of community health nursing skill useful for the maintenance and development of prevention activities. 19th EAFONS.
- ・飯野理恵他(2014): 予防活動を持続的に展開するための地域看護実践方法の特徴 . 千葉看護誌 , 19(2) , pp73 - 80.
- ・松尾睦(2011): 職場が生きる人が育つ「経験学習」入門 . ダイアモンド社 .
- ・宮崎美砂子(2009): 予防活動としての保健指導の技術 . 日本地域看護学会会誌 , 12(1) , 7-12 .
- ・宮崎美砂子, 霜越多麻美, 飯野理恵, 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤紀子, 栗栖千幸, 土屋裕子, 杉田由加里, 時田礼子, 佐藤太一(2019): 保健師の人材育成における On The Job Training - 文献レビューからみたタイプ, 開発能力, 職場環境 - . 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集 , 142 .
- ・飯野理恵, 宮崎美砂子, 石丸美奈, 佐藤紀子, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 杉田由加里, 栗栖千幸, 土屋裕子, 佐藤太一(2020): 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックの OJT への活用の実際と影響 . 日本地域看護学会第 23 回学術集会講演集 , 134 .
- ・飯野理恵, 宮崎美砂子, 石丸美奈, 佐藤紀子, 時田礼子, 鈴木悟子, 杉田由加里, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子(2021). 予防活動の地蔵・発展のための地域看護実践ワークブックの OJT への活用 第 2 報 . 日本地域看護学会第 24 回学術集会講演集 , 134 .
- ・Misako Miyazaki, Rie Iino, Mina Ishimaru, Yukari Sugita, Noriko Sato, Reiko Tokita, Satoko Suzuki, Ayano Sakai, Taichi Sato, Chiyuki Kurisu, Hiroko Tsuchiya(2022). Developing components of on-the-job training for public health nurses to promote preventive activities. The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research.
- ・飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 杉田由加里, 石丸美奈, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子(2022). 予防活動の持続・発展のための地域看護実践の OJT の条件 . 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集 , 255 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Misako Miyazaki, Rie Iino, Mina Ishimaru, Yukari Sugita, Noriko Sato, Reiko Tokita, Satoko Suzuki, Ayano Sakai, Taichi Sato, Chiyuki Kurisu, Hiroko Tsuchiya
2. 発表標題 Developing components of on-the-job training for public health nurses to promote preventive activities
3. 学会等名 The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 杉田由加里, 石丸美奈, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子
2. 発表標題 予防活動の持続・発展のための地域看護実践のOJTの条件
3. 学会等名 日本地域看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯野理恵, 宮崎美砂子, 石丸美奈, 佐藤紀子, 時田礼子, 鈴木悟子, 杉田由加里, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子
2. 発表標題 予防活動の地蔵・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTへの活用 第2報
3. 学会等名 日本地域看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯野理恵, 宮崎美砂子, 石丸美奈, 佐藤紀子, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 杉田由加里, 栗栖千幸, 土屋裕子, 佐藤太一
2. 発表標題 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTへの活用の実際と影響
3. 学会等名 日本地域看護学会 第23回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮崎美砂子、霜越多麻美、飯野理恵、石丸美奈、鈴木悟子、坂井文乃、佐藤紀子、栗栖千幸、土屋裕子、杉田由加里、時田礼子、佐藤太一
2. 発表標題 保健師の人材育成におけるOn The Job Training -文献レビューからみたタイプ、開発能力、職場環境-
3. 学会等名 日本地域看護学会第22回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 宮崎美砂子, 飯野理恵, 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 杉田由加里, 佐藤紀子, 栗栖千幸, 土屋裕子, 時田礼子, 佐藤太一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 自費出版	5. 総ページ数 77
3. 書名 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックVer. 1	

1. 著者名 宮崎美砂子, 飯野理恵, 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 杉田由加里, 佐藤紀子, 栗栖千幸, 土屋裕子, 時田礼子, 佐藤太一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 自費出版	5. 総ページ数 79
3. 書名 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックVer. 2	

1. 著者名 宮崎美砂子, 飯野理恵, 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 杉田由加里, 佐藤紀子, 栗栖千幸, 土屋裕子, 時田礼子, 佐藤太一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 自費出版	5. 総ページ数 77
3. 書名 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックVer. 3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 悟子 (SUZUKI Satoko) (10780512)	千葉大学・大学院看護学研究院・助教 (12501)	
研究分担者	飯野 理恵 (IINO Rie) (40513958)	千葉大学・大学院看護学研究院・講師 (12501)	
研究分担者	石丸 美奈 (ISHIMARU Mina) (70326114)	千葉大学・大学院看護学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	坂井 文乃 (SAKAI Ayano) (70835321)	千葉大学・大学院看護学研究院・助教 (12501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	杉田 由加里 (SUGITA Yukari)		
研究協力者	佐藤 紀子 (SATO Noriko)		
研究協力者	時田 礼子 (TOKITA Reiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	栗栖 千幸 (KURISU Chiyuki)		
研究協力者	土屋 裕子 (TUCHIYA Hiroko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関